

施策	4301 予防対策の強化						
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	無	受益者負担	余地有	
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有	
対象	市民						
施策が目指す姿	各種健診や予防接種の実施、新たな感染症の発生・拡大を防ぐ意識啓発や体制づくり、生活習慣病の予防等を図る。						
成果指標	胃がん検診受診率・・・50.0%（平成29年度目標値）（現状値11.7%） 国民健康保険人間ドック（一般、脳）受診者数 ……1,000人（平成29年度目標値）（現状値832人）						
目 標 達 成 状 況			平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	成果指標1 [%]	予定	12.00	17.00	22.00	35.00	50.00
		実績	11.60	14.00	13.60	12.60	13.00
	成果指標2 [人]	予定	900.00	940.00	960.00	980.00	1,000.00
		実績	793.00	837.00	838.00	851.00	874.00
		単位コスト	841.74	1,063.61	983.04	1,000.13	947.42
	成果指標3 []	予定					
		実績					
		単位コスト					
	成果指標4 []	予定					
実績							
単位コスト							
トータルコスト (千円)	予定	851,454	952,048	914,844	928,797	936,161	
	実績	667,499	890,239	823,785	851,109	828,044	
内 部 評 価	貢献度	人間ドック受診費用の助成や各種検診の受診率の向上は、日頃の健康管理への動機付けや早期治療につながり、予防的な施策として健康づくりの充実に貢献する。					
	達成状況	胃がん検診受診率は、目標値を大きく下回ってしまった。 国民健康保険人間ドック受診者数は、受診者数は増加したが目標達成には至らなかった。					
	課題	胃がん検診受診率が指標として相応しいか、目標値が適正か再検討する必要がある。 人間ドックについては、当初決定した受診予定者の中から未受診者が発生してしまう。					
	取組方針	市民への情報提供、啓発等を行い、予防接種や各種健（検）診、人間ドック等の受診者の増加、受診率の向上を図りたい。					
外 部 評 価	胃がん検診受診率は5年前から改善されないまま推移しているため、原因を分析し、具体的な方策を示すべき。 また、胃がん健診受診率の目標値は、国と異なる70歳以上の高齢者を含むことから大幅な未達成となっているが、比較するためには国と同じ基準で指標を設定すべき。 人間ドックの受診キャンセル者が多いので、その理由について調査し、受診率向上につながる対策を検討すべき。						
単 位 施 策 達 成 の た め の 事 務 事 業	事業コード	名 称				トータルコスト(千円)	達成度
	132801	医療費通知事業費				6,897	100
	134401	後発医薬品利用差額通知事業費				978	100
	145901	健康診査事業費				51,137	100
	270101	健康診査事業費				233,114	100
	271201	新型インフルエンザ対策事業費				8,080	100
	271501	狂犬病予防事業費（栃木）				7,251	100
	271502	狂犬病予防事業費（大平）				1,564	100
	717101	後期歯周疾患検診事業費				2,378	100
	717701	データヘルス事業費				8,849	100
271506	狂犬病予防事業費（岩舟）				4,680	99	

平成29年度 単位・基本 施策評価表 補表

施策	4301 予防対策の強化		
区分	妥当性	妥当	予防接種法や健康増進法、高齢者の医療の確保に関する法律法令で、市での実施を求められている。
	コスト削減の余地	無	受診者の増加、受診率の向上で、コストは上昇する。
	受益者負担	余地あり	検診自己負担金の増額等可能ではあるが、受診率の低下及び近隣市町負担金とのバランスに注意が必要。
	上位貢献度	有効	早期発見・早期治療により、病気の重症化を予防する人間ドックを含むけんしんは、市民の健康づくりに貢献する。
	類似事業の有無	無	関係法令で市が実施することとされており、類似事業はない。
	成果向上の余地	有	けんしん受診率の向上の余地はある。
内部評価 【H29年度分】	貢献度	病気を未然に防ぐ予防接種、病気の早期発見・早期治療により重症化を予防する人間ドックを含む検(健)診は、市民の健康づくりに貢献したと考える。	
	達成状況	国の胃がん検診、受診率の目標が50%であることから市の目標も50%としたが、国が40歳から69歳を対象としているのに対し、市は70歳以上も対象としているため目標に遠く及ばなかった。	
	課題	予防対策の代表例としてがん検診、その中でも胃がん検診を指標としているが、胃がん検診は上記理由及びバリウム剤の誤嚥事故防止のため高齢者の実施を推奨していないなど、このまま指標として使用するの難しい。	
	取組方針	市の広報紙やホームページを使った広報活動のほか、個別通知による受診勧奨(コール)、受診勧奨を行ったにもかかわらず未受診となっているものへ再勧奨(リコール)などを行い、受診者数の増加、受診率の向上を図りたい。	
内部評価 【前期5年分】	貢献度	病気を未然に防ぐ予防接種、病気の早期発見・早期治療により重症化を予防する人間ドックを含む検(健)診は、市民の健康づくりに貢献したと考える。	
	達成状況	国の胃がん検診、受診率の目標が50%であることから市の目標も50%としたが、国が40歳から69歳を対象としているのに対し、市は70歳以上も対象としているため目標に遠く及ばなかった。	
	課題	予防対策の代表例としてがん検診、その中でも胃がん検診を指標としているが、胃がん検診は上記理由及びバリウム剤の誤嚥事故防止のため高齢者の実施を推奨していないなど、このまま指標として使用するの難しい。	
	取組方針	市の広報紙やホームページを使った広報活動のほか、個別通知による受診勧奨(コール)、受診勧奨を行ったにもかかわらず未受診となっているものへ再勧奨(リコール)などを行い、受診者数の増加、受診率の向上を図りたい。	